直接民主制の実現をめざして
―――「再生の道」への挑戦とその顛末

東京都青梅市　峯木　貴

私は、直接民主制の実現という目標を胸に、石丸伸二氏が率いる「再生の道」にエントリーいたしました。日本における政治参加のあり方に疑問を抱き続けてきた中で、気軽に出馬できるというこのプロジェクトは、まさに私が理想とする民主主義の実現に重なりました。

「再生の道」は、政治家ではない一般のビジネスマンなどが東京都議会議員選挙に立候補することを前提としたもので、透明性と民意の直接反映を重視する仕組みを持っていました。エントリーは 2025 年 1 月 15 日から行われ、私は青梅地区から応募いたしました。

１．一次・二次選考の通過

応募総数は 1,128 名と、非常に多くの方が関心を寄せていました。その中から一次選考では 360 名が選ばれ、私は無事通過することができました。倍率は約 3 倍であり、書類選考にあたってはかなりの選抜が行われていたと思われます。

続く二次選考では、WebGAB（ウェブギャブ）と呼ばれる適性検査が実施されました。これは、文章理解や論理的思考、数的処理能力などを短時間で厳しく測るもので、一般企業でも活用されている難度の高い試験です。特に制限時間内に膨大な情報処理を求められるため、集中力と瞬時の判断力が問われました。事前準備をして臨んだものの、かなり緊張感のある選考であり、多くの受験者にとって大きな壁となったはずです。ただし、この二次選考は補足的に行うものといわれていました。

私はこの試験を突破し、120 名の枠に入ることができました。特にエントリーシートの作成には、ライフスタイルの会の仲間とともに徹底的な議論を重ねており、内容には強い自信を持っておりました。直接民主制の理念、都政への提言、青梅市の課題、そして私自身のこれまでの経験や政策構想を書き上げたものです。これが、二次選考まで通過したカギとなっていたと思っています。

２．三次選考（公開面接）とその結果

三次選考は、YouTube 上での公開面接という非常に特徴的な形式で行われました。この面接は、単なる形式的なやり取りではなく、通常の企業面接以上に深く、実質的な内容が問われるものでした。政策への理解度や現実性、ビジョンの明確さ、さらには自分の言葉でそれを伝える力まで、幅広く評価される構成でした。

私は、自らの行政経験や環境分野での知見、そして地域密着の生活者としての視点をもとに、都政への具体的な提言を行いました。議会や行政の透明化、多選の制限、SNS や AI を活用した一般意思の収集と政策化の仕組みなど、多面的なビジョンを述べました。石丸氏の質問は鋭いナイフのようで私の経歴よりも私自身の過去の記憶を根底からえぐるものでした。

しかし、面接官の一人であった女子高校生の方が、とてもやさしいまなざしで私に語りかけてくださったことが印象に残っています。厳しい質問が続く中で、「すてきなビジョンですね」と声をかけてくださり、緊張していた私の心が一瞬和らぎました。この言葉は、結果に関係なく、今も心に残っています。

三次選考では落選となりました。青梅市から面接に臨んだ 2 名はいずれも不採用となり、今回の都議選では青梅地区に「再生の道」の候補者はゼロという結果になりました。この結果は、意外ではありませんでした。私の力不足であったと、素直に受け止めております。

３．青梅市の状況と今後への展望

青梅市は都心から電車で 1 時間ほどの距離にある自然豊かな地域です。人口減少と高齢化の影響を強く受け、過疎化の問題が顕在化しているエリアでもあります。このような地域においてこそ、住民の声が丁寧に政策に反映される直接民主制の仕組みが必要であると私は考えております。

今回、立候補には至りませんでしたが、私の中で理想とする社会像は少しも揺らいでおりません。むしろ、この経験を通じて、自身に足りなかったことが明確になったことは、今後の活動にとって貴重な糧に

なると確信しています。

都議選という大きな舞台での挑戦は一区切りとなりましたが、今後は青梅市を起点に、地域課題の解決に向けた活動を継続します。いずれは市長選への挑戦も視野に入れ、地域に根差した直接民主制のモデルづくりを目指してまいります。そして、行政の透明化、議会の民主化というテーマに対しても引き続き取り組んでいきます。

私の考える民主主義は、特別な人だけが関与するものではなく、市民一人ひとりが日常の中で参加し、支えるものです。そのためには、生活者の視点を忘れず、どのようにして意見を吸い上げ、政策に変えていくかという具体的な方法論が必要です。私はそれを現場で模索し続けていきます。

４．Ｘでの発信活動とその反響

三次選考の結果、青梅市から「再生の道」の候補者が不在となりました。しかし、直接民主制の理念や「再生の道」が掲げる精神を世の中に伝えていく活動を止めることはありません。むしろ、立候補が叶わなかったからこそ、市民目線からの発信がより重要になると感じ、X（旧 Twitter）での情報発信を強化することにいたしました。

私の投稿で特に大きな反響を呼んだのが、石丸氏とある議員との間で起きたとされる「恫喝事件」に関する投稿でした。この件では、その議員に対する誹謗中傷が SNS 上で広がりましたが、私はそれに対して、「実際には石丸氏の方がはるかに多くの誹謗中傷を受けている」という客観的な視点から反論する記事を投稿しました。この投稿は瞬く間に広がり、22 万回以上閲覧されました。内容が共感を呼んだのか、「いいね」やコメント、リポストなども多数寄せられ、健全な政治議論のあり方やネット上の言論空間について、幅広い層から意見が寄せられました。このような反響を通じて、誤解や偏見に基づいた言説がどれほど社会的影響を持つか、そしてそれに対抗する事実ベースの発信がいかに重要かを再認識いたしました。

今後もこのような SNS 上での発信を通じて、直接民主制の精神を広め、市民が正確な情報に基づいて議論し判断できる土壌を育てていきたいと考えております。政治は選挙だけで成り立っているのではありません。情報を発信し、受け止め、そして対話することもまた、民主主義の重要な一部であると信じています。

５．都議選の結果

6 月 22 日（日）の 20 時から開票が始まりました。

これについては皆さんもご存じのように自民惨敗、都民ファースト、国民民主躍進です。

「再生の道」はどうだったのでしょうか。

自民党の 45 人に次ぐ 42 名を擁立したのですが全敗でした。最低でも一名は当選させなければ、全くなかったことになってしまいます。これは、同一地区に複数候補者を立てたことや党としての政策を上げなかったことが要因といわれています。仮に候補者を 1 本化できていれば、当選した区が世田谷区、杉並区でした。しかし、そんなことを言っても後の祭りです。また、石丸氏は党の政策については最後まで触れませんでした。

「再生の道」の今回の都議選は来月 7 月に行われる参議院選の前哨戦でした。参議院選で、議席を取らなければ「再生の道」の存続に影響があります。

私は将来的に直接民主制を「再生の道」の中で目指すことを考えています。参議院選での石丸氏の活躍に期待を込めてこの稿を終えます。